

# 子ども大学はにゅうの実践

～おかえりセンパイ・サポーター～

## 1 実践のねらい

子ども大学はにゅうの卒業生を、サポーターとして運営に参画させることにより、異年齢間の交流を促進させ、将来の地域の生涯学習を担う未来人材を育成する。

## 2 事業計画

- (1) 子ども大学はにゅうの卒業生に、サポーターとしての参加を呼び掛ける。
- (2) 講義開始前に、「コミュニケーションスキルアップ」のミニ講座を開講し、サポーターに子ども大学の参加者である小学生への学習サポートの方法などを学んでもらう。
- (3) サポーターは子ども大学の運営に協力するとともに、講義にも参加して、小学生の学習をサポートする。

月日	講義名【会場】
9 / 16 (土)	講義1「今日からみんなお友達」 講義2「羽生実業高校の農産物を学習しよう」【埼玉純真短期大学】
10 / 21 (土)	講義3「角帽を作ろう」 講義4「いろいろなリズムで音楽世界旅行」 講義5「隣の国はどんな国？フィリピンってこんな国」【埼玉純真短期大学】
11 / 18 (土)	講義6「はにゅうの文化と歴史を知ろう」【羽生山建福寺】
12 / 9 (土)	講義7「作ってあそぼう・飛ぶおもちゃに挑戦」 講義8「学習のまとめ」【埼玉純真短期大学】



子ども大学はにゅうの10人のサポーターです

## 3 事業内容

### (1) 「コミュニケーションスキルアップ」ミニ講座の開講

サポーターの役割や効果的なサポートの方法、小学生とのコミュニケーションのとり方などについて、サポーターが学ぶミニ講座を開講する。



サポーター・ミニ講座です

### (2) サポーターの運営参加

子ども大学に参加する小学生の受付や、学習会場までの誘導など、運営の補助を行う。

### (3) サポーターの講義への参加と小学生の受講支援

子ども大学に参加する小学生と一緒に講義を受講するとともに、小学生の学習グループにも入って、小学生の学習活動をサポートする。サポーターはグループでの会話や活動の補助を通して小学生との人間関係が構築でき、小学生は学習に対する理解をより深めることができる。



一日の講座が終わり、反省会です

### (4) 「青少年相談員協議会」との連携

サポーターは子ども大学に参加する小学生の活動をサポートするとともに、青少年相談員の活動内容を伝え、将来、地域での活動につなげられるよう連携を図る。

なお、青少年相談員も運営補助として参加し、小学生の学びの支援を行う。

## 4 成果と課題

### (1) 成果

ア 本年度サポーターとして参加してくれた中学生8名、高校生2名の全員が、子ども大学への参画を楽しみ、子ども大学に参加する小学生との交流に積極的に取り組んだ。小学生も人とのつながりが広がっていく楽しさを感じたようであった。

イ サポーターは、「コミュニケーションスキルアップ」ミニ講座の内容をよく理解し、また、講座の中で年齢の近い大学生と触れ合ったことで大きな成果を生むことになった。

ウ 中学生サポーターの一人は、小学生の頃から5期連続の参加とこのことであり、子ども大学卒業後も積極的に地域活動に参加しようという意識が醸成されていることが伺えた。

エ 子ども大学に参加する小学生へのサポートのほかに、自らのコミュニケーション能力の向上を図るためにサポーターとして参加する中学生と高校生もあり、小学生とサポーター双方にとって有効な取組であることが確認できた。

オ 地域の小学校に勤務するALTの協力を得て、異文化理解の要素を取り入れた学習を新たに取り入れることができた。今後も地域の教育資源を活用した新しい視点での取組を導入していきたい。

### (2) 参加者からの声

ア 小学生の声

「来年は、ぜひサポーターとしてお手伝いできればいいなと思います。」

イ サポーターの声

「小学生を教えることの難しさ、そして楽しさを学んだ。」  
「小学生のサポートと同時に、自分も講義を受けられて楽しかった。」

ウ 保護者の声

「サポーターをはじめ、たくさんのスタッフに関わっていただき、とても手厚い対応だと思いました。」

### (3) 課題

「異年齢交流モデル事業」のサポーター制度は、今年から高校生の参加もあり、順調に推移している。将来、地域の生涯学習を担う人材の育成を進めるために、青少年相談員協議会をはじめとした、各種地域団体とのさらなる連携が今後の課題である。



角帽づくりのお手伝い



羽生の姉妹都市バギオはどこだろう



ティニクリン(バンブーダンス)も楽しみました



お寺での受付風景です



座禅にも参加しました



学習のまとめがちゃんと出来ているかな